



第93回全日本学生馬術選手権大会 第57回全日本学生馬術女子選手権大会

Date : 2021年11月27日(土)~28日(日) Place : 蒜山ホースパーク

主催 : (一社)全日本学生馬術連盟 共催 : (公社)全国乗馬倶楽部振興協会 Report : 北浜ひかる (広報/麻布大学2年)

令和3年11月27日と28日にかけて、岡山県真庭市にある蒜山ホースパークにて第93回全日本学生馬術選手権大会及び第57回全日本学生馬術女子選手権大会が開催されました。

選手権大会は年間に2つある全日本学生馬術連盟が主催する大会のうちの1つで、全日本学生賞典馬術三大会と双璧をなす大会です。三大会では選手は自分の大学の馬で挑むのに対し、選手権大会は貸与馬による大会です。クロスカントリー競技はないのですが、普段から乗り慣れている馬ではないため、選手には高い技術が求められるルールとなっています。

今大会には各地区の予選を勝ち抜いた選手が集まりました。選手権大会は、北日本地区から5人、関東地区から12人、中部地区から5人、関西地区から5人、中国・四国地区から3人、九州地区から2人の総勢32名の選手が出場しました。女子選手権は、北日本地区から6人、関東地区から12人、中部地区から4人、関西地区から5人、中国・四国地区からは3人、九州地区から2人で、合わせて32名の選手が出場しました。

26日の金曜日に大会の打ち合わせ会とともに、32名を4人ずつ8ブロックに分ける抽選会が行われました。今大会はコロナ対策ということもあり、全員マスクを着用して行いました。

いよいよ27日から競技が始まりました。1回戦と2回戦の両方も学生選手権馬場馬術課目2018による馬場馬術競技です。今大会は中国・四国地区の大学が馬を貸してくださいました。競技初日には雪が降っており、選手と馬の双方にとって大きな負担となっていました。貸出馬による部班の馬みせでは、選手達は自分が乗る馬をよく観察していました。実際に跨ってからは少ない時間の中で馬の特徴をつかもうと必死な様子でした。同じ馬に騎乗するブロックごとに上位2名が勝ち残る形式で、1回戦では32名が16名に、2回戦では16名が8名になりました。

翌日には準決勝戦、決勝戦が行われました。準決勝からは馬場馬術競技に加えて障害馬術競技が加わり、馬場の得点から障害の減点を引いた総得点で順位を決定します。障害の高さは1m以上1.2m以内です。また決勝戦では、馬場馬術競技を2戦、障害馬術競技を2戦行います。会場は前日よりもにぎわいを見せ、決勝戦には選手権、女子選手権ともに4名が勝ち上がりました。

選手権の決勝に進んだのは、日本大学から3年生の瀬川裕哉選手、鷹見優選手、楠本将斗選手、そして立命館大学から4年生の森本修平選手でした。馬場馬術競技は鶴雄(広島工業



▲全日本学生馬術選手権大会 入賞選手

選手権大会

順位	選手名	大学名	馬場得点	障害減点	総得点
1	楠本将斗	日本大学	795.5	10.4	785.1
2	森本修平	立命館大学	767.5	5.2	762.3
3	鷹見優	日本大学	766.0	9.2	756.8
4	瀬川裕哉	日本大学	803.0	500.8	302.2

大学)とコルヴスⅢ(京都産業大学)、障害馬術競技には龍宮(立命館大学)と京飛梅(京都大学)の4頭が提供されました。馬場馬術競技では、鷹見選手が766.0点(60.794%)で暫定4位、森本選手が767.5点(60.913%)で暫定3位、楠本選手が795.5点(63.135%)で暫定2位、瀬川選手が803.0点(63.730%)で暫定1位という結果となりました。瀬川選手は12月に行われた全日本学生賞典総合馬術競技大会で3位に入賞した選手であり、また楠本選手は全日本学生賞典馬場馬術競技大会で優勝した選手です。どの選手の演技も素晴らしく、誰が優勝してもおかしくない点差となり会場は熱気に包まれていました。そんな中迎えた障害馬術競技では、瀬川選手が2走目で失権となってしまったこともあり、ますます結果が分からなくなっていく中、馬場で好成績を収めた楠本選手が2走行の障害減点10.4で優勝しました。続いて障害の総減点を5.2点で抑えた森本選手が2位、障害総減点9.2の鷹見選手が3位、惜しくも障害で失権してしまった瀬川選手が4位という結果でした。

女子選手権の決勝に進んだのは、日本大学3年生の吉田こと

み選手と堀坂七菜子選手、立命館大学3年生の大井千帆選手、そして名古屋大学4年の米谷倫香選手でした。吉田選手は12月に行われた全日本学生賞典障害馬術競技、全日本学生賞典総合馬術競技で優勝した選手です。馬場馬術競技はオレンジオペレッタ（愛媛大学）と杉旭（大阪市立大学）、障害馬術競技にはヴェラ（京都産業大学）と清風（広島大学）が提供されました。馬場馬術競技では、米谷選手が692.0点（54.921%）で暫定4位、吉田選手が722.0点（57.302%）で暫定3位、大井選手が728.5点（58.817%）で暫定2位、堀坂選手が742.0点（58.889%）で暫定1位という結果となりました。馬が暴れ、吉田選手が落馬してしまい馬が負傷してしまうアクシデントが起こり会場は一時騒然としたものの、代用馬を使用して競技は続けられました。障害馬術競技で総減点10となった堀坂選手が1位、減点を1.6点に抑えた大井選手が2位、減点6の吉田選手が3位、減点8の米谷選手が4位という結果となりました。

表彰式では常陸宮杯や千玄室杯など様々なトロフィーと賞状、賞品が選手達に授与されました。

最後になりましたが、今大会に馬を貸して下さった大学の皆様、役員、関係者の方々、そしてご後援いただいた企業に厚く御礼申し上げます。



▲全日本学生馬術女子選手権大会 入賞選手

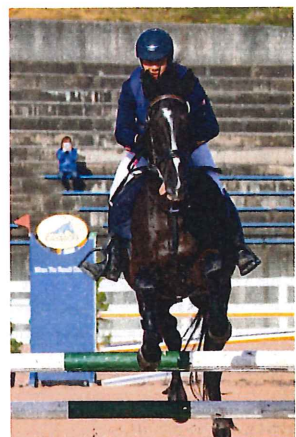
女子選手権大会

順位	選手名	大学名	馬場得点	障害減点	総得点
1	堀坂七菜子	日本大学	742.0	10.0	732.0
2	大井千帆	立命館大学	728.5	1.6	726.9
3	吉田ことみ	日本大学	722.0	6.0	716.0
4	米谷倫香	名古屋大学	692.0	8.0	684.0

○選手権優勝者コメント 日本大学3年 楠本将斗選手

今大会は蒜山ホースパークという今までにない競技場で行われました。選手権に参加したのは3年目ですが、過去2年の会場は御殿場市馬術・スポーツセンターと津久井馬術競技場で、馬は全て見たことがある関東学生の馬でした。しかし今回は、競技場も馬たちも初めてづくしでとても新鮮で楽しむことができました。

決勝戦までは順調に進んでいたのですが、決勝戦で瀬川に馬場の点数で負けてしまい、完勝という結果にはなりません。たまたま瀬川が障害で失権してしまったので僕は勝つことができましたが、運も実力の内というよりも圧勝をすることが理想の勝ち方だったので悔しいです。来年は完勝できるように馬場馬術でもっと点が取れるように研究したいと思います。



◀選手権大会優勝 楠本将斗

○女子選手権優勝者コメント 日本大学3年 堀坂七菜子選手

このたび、全日本女子選手権で優勝することができました。私は今まで、なかなか良い成績を残すことができなかったのですが、今回優勝することができて本当に嬉しいです。今まで練習に付き合ってくれた馬たち、レッスンしてくれた同期、そしてなにより、試合に出場するチャンスと素晴らしい環境を与えてくださった監督、コーチの皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。また、新型コロナウイルスの影響で運営活動が制限される中、試合開催のために力を尽くしてくださった運営の方々、本当にありがとうございました。

この結果に満足することなく、常に向上心を持ってこれからも練習に励みたいと思います。そして、また来年も勝てるように頑張ります！



◀女子選手権大会優勝 堀坂七菜子

